

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実践研究や保育に関する文献講読をし、討議を行い、保育・教育実習での経験等から、自分が興味のあるテーマを探求する。文献講読をしていく中で、要約し考察することができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

様々な保育現場での実践研究に関する文献講読をし、分担してレジュメ作成をし、発表する。話し合いの場を設け、気づきや理解を深めていく。実践例等から各自が興味関心のある事柄を模索するまた、保育実践の現場に行き、観察等を行い振り返りを行う。先行文献の選定の仕方等を学び、各自が注目しているテーマについて、調査し、発表を行い、卒業研究への方向性を決めていく。

授業計画

- オリエンテーション
- 保育実践研究の文献講読（1）
- 保育実践研究の文献講読（2）
- 保育実践研究の文献講読（3）
- 保育実践研究の文献講読（4）
- 保育実践研究の文献講読（5）
- 個人研究のリサーチ（1）
- 個人研究のリサーチ（2）
- 個人研究のリサーチ（3）
- 個人研究のリサーチ（4）
- 保育実践実地研修
- 個人研究の発表（1）
- 個人研究の発表（2）
- 個人研究の発表（3）
- まとめ 演習Ⅱに向けて

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。文献講読のための発表やディスカッションを通して、気づきや考察を深めることができるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題レポートや振り返りシートの提出を求める。授業内にフィードバックを行う。
②平常点70％、定期試験30％

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房
必要に応じて紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

主体的に課題に取り組み、自ら進んで研究に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	f		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	必修	2				

授業の到達目標

保育実践研究や保育に関する文献講読をし、討議を行い、保育・教育実習での経験等から、自分が興味のあるテーマを探求する。文献講読をしていく中で、要約し考察することができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

様々な保育現場での実践研究に関する文献講読をし、分担してレジュメ作成をし、発表する。話し合いの場を設け、気づきや理解を深めていく。実践例等から各自が興味関心のある事柄を模索するまた、保育実践の現場に行き、観察等を行い振り返りを行う。先行文献の選定の仕方等を学び、各自が注目しているテーマについて、調査し、発表を行い、卒業研究への方向性を決めていく。

授業計画

- オリエンテーション
- 保育実践研究の文献講読（1）
- 保育実践研究の文献講読（2）
- 保育実践研究の文献講読（3）
- 保育実践研究の文献講読（4）
- 保育実践研究の文献講読（5）
- 個人研究のリサーチ（1）
- 個人研究のリサーチ（2）
- 個人研究のリサーチ（3）
- 個人研究のリサーチ（4）
- 保育実践実地研修
- 個人研究の発表（1）
- 個人研究の発表（2）
- 個人研究の発表（3）
- まとめ 演習Ⅱに向けて

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを中心とする。文献講読のための発表やディスカッションを通して、気づきや考察を深めることができるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70％、定期試験30％

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

主体的に課題に取り組み、自ら進んで研究に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

卒業研究の作成に向けて、研究テーマを決定し、文献の収集、先行研究の読解、要約、調査等を行う。
卒業研究の研究構想と計画について発表を行い、質疑応答を通して、互いに理解を深める。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて、演習Ⅰでの個人研究の発表を通して、考察し、研究テーマを決定する。
研究に必要な文献の収集、先行研究の読解、要約等を行い、リサーチする。卒業研究の研究構想と計画について各自発表の準備を行う。途中経過を発表し、双方向で意見交換を行い、発表をよりよいものとする。

授業計画

- 1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 2 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(1)
- 3 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(2)
- 4 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(3)
- 5 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(1)
- 6 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(2)
- 7 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(3)
- 8 研究構想と計画の検討(1)
- 9 研究構想と計画の検討(2)
- 10 各自の研究構想と計画の進捗状況の報告(1)
- 11 各自の研究構想と計画の進捗状況の報告(2)
- 12 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(1)
- 13 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(2)
- 14 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(3)
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを取り入れ、双方向の意見交換を行う。
研究テーマ決定後、研究構想と計画について各自発表の準備を行

う。途中経過を発表し、様々な意見を聞き、発表に必要な研究法や手続き、調査についても考えを深め、発表できるようにする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点70％ 定期試験30％

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房
必要に応じて紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

主体的に課題に取り組み、自ら進んで研究に取り組むこと。提出物は期限を守ること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	f		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究の作成に向けて、研究テーマを決定し、文献の収集、先行研究の読解、要約、調査等を行う。
卒業研究の研究構想と計画について発表を行い、質疑応答を通して、互いに理解を深める。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて、演習Ⅰでの個人研究の発表を通して、考察し、研究テーマを決定する。
研究に必要な文献の収集、先行研究の読解、要約等を行い、リサーチする。卒業研究の研究構想と計画について各自発表の準備を行う。途中経過を発表し、双方向で意見交換を行い、発表をよりよいものとする。

授業計画

- 1 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
- 2 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(1)
- 3 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(2)
- 4 演習Ⅰでの発表についての意見交換を行う(3)
- 5 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(1)
- 6 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(2)
- 7 研究構想と計画、文献、資料に関する指導(3)
- 8 研究構想と計画の検討(1)
- 9 研究構想と計画の検討(2)
- 10 各自の研究構想と計画の進捗状況の報告(1)
- 11 各自の研究構想と計画の進捗状況の報告(2)
- 12 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(1)
- 13 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(2)
- 14 研究構想と計画の立案と発表・質疑応答(3)
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションとディスカッションを取り入れ、双方向の意見交換を行う。
研究テーマ決定後、研究構想と計画について各自発表の準備を行

う。途中経過を発表し、様々な意見を聞き、発表に必要な研究法や手続き、調査についても考えを深め、発表できるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70％ 定期試験30％

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

主体的に課題に取り組み、自ら進んで研究に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士、私立保育園保育士			

授業の到達目標

演習Ⅱにおいて決定した研究テーマに基づき、卒業研究計画書を作成して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各自の研究テーマに基づいて卒業研究を進めていく。研究の方法を決定し、文献の収集、講読、要約等を行い、中間発表を通して、研究を深めていく。

授業計画

- 1 演習Ⅲにおけるオリエンテーション
- 2 卒業研究の方法等の確認
- 3 卒業研究の執筆手順やスケジュールの確認を行う。
- 4 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。①
- 5 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。②
- 6 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。③
- 7 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。④
- 8 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑤
- 9 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑥
- 10 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑦
- 11 卒業研究中間報告に向けて各自作業を行う。⑧
- 12 卒業研究中間報告を行う①
- 13 卒業研究中間報告を行う②
- 14 今後の研究の進め方を確認する。
- 15 まとめ

授業の方法

研究内容や取り組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルガ 7書房
各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

卒業研究に対して各自主体的に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 演習と卒業研究の進め方
- 2 研究発表と質疑応答 1
- 3 研究発表と質疑応答 2
- 4 研究発表と質疑応答 3
- 5 研究発表と質疑応答 4
- 6 研究発表と質疑応答 5
- 7 研究発表と質疑応答 6
- 8 研究発表と質疑応答 7
- 9 研究発表と質疑応答 8
- 10 研究発表と質疑応答 9
- 11 研究発表と質疑応答 10
- 12 卒業研究の要約
- 13 卒業研究の修正
- 14 卒業研究の発表
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 調査結果のまとめ1
- 2 調査結果のまとめ2
- 3 調査結果のまとめ3
- 4 結果報告1
- 5 結果報告2
- 6 結果報告3
- 7 結果報告4
- 8 まとめと考察1
- 9 まとめと考察2
- 10 まとめと考察3
- 11 要約作成・発表1
- 12 要約作成・発表2
- 13 要約作成・発表3
- 14 研究発表1
- 15 研究発表2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	必修	2	公立保育所保育士・私立保育園保育士			

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、色々な角度から研究を見直し、卒業研究を完成させる。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 卒業研究の進捗状況の確認①
- 2 卒業研究の進捗状況の確認②
- 3 卒業研究の進捗状況の確認③
- 4 卒業研究の報告と討議①
- 5 卒業研究の報告と討議②
- 6 卒業研究の報告と討議③
- 7 卒業研究の報告と討議④
- 8 卒業研究の報告と討議⑤
- 9 卒業研究の報告と討議⑥
- 10 卒業研究の報告と討議⑦
- 11 卒業研究の修正とまとめ
- 12 卒業研究の要約
- 13 卒業研究の修正
- 14 卒業研究の発表
- 15 まとめ

授業の方法

研究内容や取り組み状況の報告・発表を通して、討議することを中心に授業を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点70％、定期試験30％

欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房
各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

授業中に必要に応じて紹介する。

留意事項

卒業研究に対して、各自主体的に取り組むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもと人間関係			17434	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解し、幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論的視点から理解する。

授業の概要

現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論を理解し、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期に人と関わる力が育つことを理解する。

授業計画

- 子どもと取り巻く人間関係(現代社会と幼児の人間関係)
- 保育における人間関係(領域「人間関係」、園生活の中で育まれる「人間関係」)
- 乳児期の人間関係(0歳児の人間関係、愛着、大人(保育者、保護者)の役割)
- 1歳以上3歳未満児の人間関係(自我の芽生え、遊びと生活、保育者の役割)
- 3歳以上児の人間関係(自我の育ちと自己調整、遊びと生活、保育者の役割)
- 子どもの人間関係と社会性・道徳性(自己理解、他者理解、道徳性の育ち)
- 家庭や地域との連携(保護者と保育者の人間関係、地域、専門機関との連携)
- 保育者が紡ぐ「人間関係」(保育者自身の人間関係、子ども理解)まとめ定期試験

授業の方法

保育実践の事例等を取り入れ具体的にわかりやすい講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

ワークで学ぶ保育内容「人間関係」 みらい
幼稚園教育要領解説

参考図書

授業内で紹介する。

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。
日頃から人間関係力について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合はオフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC		17437	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)

英米の児童文学の文化と歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外ではフランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

授業計画

- 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」
- 「金太郎」・「酒吞童子伝説」
- 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
- 有島武郎「一房の葡萄」
- 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」
- 日本の現代児童文学について
- 英米の児童文学の歴史
- ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』
- ナーサリーライム(マザーグース)
- L.M.オルコット『若草物語』
- R.L.スティーブンソン『宝島』
- L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- ベアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15 アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像鑑賞も行う。(箕野)
講義と発表形式で授業を実施する。講義だけでなく、学生の発表、およびグループディスカッションにより授業をすすめる。(宮副)

準備学修

Web参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験(レポート)30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。(箕野)

平常点30% レポート 2回 60% 提出物等 10%、で評価する。(宮副)

欠席について

規定に従う。

テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)
『英米児童文化 55のキーワード』白井澄子、笹田裕子編著 ミネルヴァ書房、および、プリントを配布する。(宮副)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程論			17623	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨花	選択	2				

授業の到達目標

幼児期の子どもの育ちに関する問題に関心を持ち、それを多角的にとらえて考え子どもの育ちを支えるカリキュラムの特性を理解する。幼児を理解し、適切な評価に基づいて改善していくための基本的な考え方や方法を理解し、基本的な知識と技術を身につける。また、幼児期の教育における教育課程の役割・機能・意義を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

現代社会における幼児教育をめぐる世界的な動向を踏まえ、幼児期に子どもがどのような学びや経験を実現するのか、その枠組みを定めるカリキュラムと教育課程に関する基本的な理解をする。幼児期における教育課程の意義とその編成原理、及びカリキュラム・マネジメント（教育・保育計画と評価）について学び、幼児教育の専門家として求められる知識と技術を身につける。遊ぶ子どもの姿から、豊かな保育や教育を保障するために有効な指導計画のあり方について考える。

授業計画

- オリエンテーション:幼児期の子どもの育ちを考える
- 幼児期の教育課程の役割・機能・意義
- 幼児期教育課程の編成と基本原理
- 幼児期とカリキュラム(1)子どもの育つ環境の変化
- 幼児期とカリキュラム(2)世界の保育カリキュラム
- 園づくりとカリキュラム・マネジメント
- 幼稚園の指導計画の作成、保育所・認定こども園の指導計画の作成
- 幼児理解に基づいた評価
- ねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の考え方と指導計画の関係
- 0歳児、1歳から3歳未満の指導計画について(グループワーク)
- 3歳・4歳・5歳の指導計画について(グループワーク)
- 月の指導計画(月案)の作成について(グループワーク)
- 週の指導計画(週案)の作成について(グループワーク)
- 日の指導計画(日案)の作成について
- まとめ:教育課程をめぐる現状と課題

授業の方法

講義を中心とするが、適宜グループワークを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

学内規定に準ずる。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

留意事項

図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書や文献を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育の視野を広げること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）の育成を目指す。

授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

授業計画

- 1 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
- 2 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
- 3 乳幼児期の発達と領域「人間関係」①
- 4 乳幼児期の発達と領域「人間関係」②
- 5 子どもと保育者の関わり①
- 6 子どもと保育者の関わり②
- 7 遊びのなかの人との関わり①
- 8 遊びのなかの人との関わり②
- 9 生活を通して育つ人との関わり①
- 10 生活を通して育つ人との関わり②
- 11 個と集団の育ち①
- 12 個と集団の育ち②
- 13 人との関わりを見る視点 自己の発達と人との関わり
- 14 現代の保育の課題と領域「人間関係」
- 15 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
 - ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」萌文書林

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

留意事項

日頃から人間関係力について考えておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17643	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
俊野 尚彦	選択	2	臨床医（精神科・総合内科）産業医 看護学教員			

授業の到達目標

子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く社会及び環境の理解などを深める。
医療・保健の知識を身につけ、子どもだけでなく自分や周囲の人の健康に目をむけ、健康管理と環境整備ができる知識を身に付ける。

授業の概要

生物としてのヒト及びその生理、社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、身体及び心の発達、それらへの関わり方や役割などを理解する。子どもの健康状態の把握や子どもの疾患の病態生理、特徴を理解する。こうした知識を基盤に予防や対応を共に考えていく。

※授業計画表は状況に応じて適宜変更する。

授業計画

- オリエンテーション
- I 子どもの心身の健康と保健の意義
- I 子どもの心身の健康と保健の意義
- II 身体発育と保健
- III 運動機能の発達と保健
- IV 生理機能の発達と保健
- V 精神機能の発達と保健
- V 精神機能の発達と保健
- VI 心身の健康状態とその把握
- VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- まとめ

授業の方法

スライドや板書を用いてテキストに沿って解説していく。
適宜、ゲスト講義、グループワークや症例検討を行う。
子どもや健康・医療に関するニュース（感染症、精神疾患、制度、社会問題など）に関心を持つ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価方法

- ①出席状況や積極性、授業中のリアクションペーパーなど。
- ②レポートや口頭試問など。

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

新版 よくわかる子どもの保健 丸尾良浩／竹内義博 ミネルヴァ書房
適宜プリントを配布する。

参考図書

病気がみえるvol. 15 小児科 単行本
子どもの心の処方箋―精神科児童思春期外来の現場から 宮田 雄吾

オフィスアワー

講義後など

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの健康と安全			17647	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解する。子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月厚生労働省）
「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省）
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等について適切な対応（応急処置や救急処置及び救急蘇生法含む）、感染症対策について具体的に理解する。保育における保健的対応の中で3歳未満児、個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応について学ぶ。健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解する。

授業計画

- 1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
保険における健康及び安全管理①
- 2 保育における健康及び安全管理②
- 3 救急処置及び蘇生法 感染症対策について
- 4 小児救急法【演習】
- 5 小児救急法【演習】

- 6 保育における保健的対応、健康及び安全の管理について
- 7 沐浴指導【演習】まとめ
- 8 まとめ 定期試験

授業の方法

講義及び演習を中心とする。グループワークも取り入れる。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも留意する。
事前に必ずテキストを熟読しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子どもの健康と安全」 ななみ書房

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
授業時に随時紹介する。

留意事項

演習については事前に連絡する。小児救急法（演習）の参加を必須とする。
欠席の場合は別途課題提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

- 1 保育における子どもの食と栄養
- 2 子どもの心身の健康と食生活
- 3 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
- 4 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
- 5 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(1)
- 6 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(2)
- 7 幼児期の心身の発達と食生活
- 8 学童期、思春期の心身の発達と食生活
- 9 食育の内容と計画および評価(1)
- 10 食育の内容と計画および評価(2)
- 11 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(1)
- 12 家庭や児童福祉施設における食事と栄養(2)
- 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)

- 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)
- 15 子どもの食生活の現状と課題 まとめ

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%
授業内での提出物の評価は平常点に入れる。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」 萌文書林

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）			17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを存分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とK（思いやり）を養う。

授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して解説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

授業計画

- 1 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
- 2 子どもの表現行動と精神発達(表出することを楽しむ、模倣性を経験する)
- 3 子どものからだと表現(発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現)
- 4 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
- 5 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
- 6 創造性を豊かにする身体表現と小学校の教科との関連
- 7 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成(情報機器や教材の活用を行う)
- 8 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
 - ②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点60% 課題レポート30% 指導案10%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「実践 心ふれあう 子どもと表現」 株式会社みらい

参考図書

「表現言論」 萌文書林 等 授業時に紹介する。

留意事項

動きやすい服装で出席すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児理解の理論と方法（教育相談を含む）			17727	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

幼児の実態に即し、生育環境や集団の中での育ち合い等の多様な環境を背景とした幼児理解の意義を理解する。また、幼児の発達や学びを捉える基礎資料となる観察、記録の基礎的事項、多面的な考察と分析の重要性を理解する。幼児のつまずき等の発達上の課題や保護者の多様な思いに対応する保育者の姿勢やカウンセリングの方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践やエピソード記録、カンファレンスの実践を通して、幼児を多面的に理解する力を身に付ける。また、幼児の発達や生育環境など、幼児一人ひとりの実態に即した指導や、専門家を交えたチームでの対応方法、保護者の心情を理解した連携とカウンセリングマインドを基にした支援方法を身に付ける。

授業計画

- 1 保育の場における相談ニーズとカウンセリングマインド
- 2 子どもの発達理解と相談・支援
- 3 保護者理解とその対応(1)
- 4 保護者理解とその対応(2)
- 5 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(1)
- 6 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり(2)
- 7 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ
- 8 保育場面でのカウンセリング技法の活用(1)
- 9 保育場面でのカウンセリング技法の活用(2)
- 10 【演習】事例検討 保護者対応を想定したロールプレイから学ぶ支援の在り方
- 11 【演習】行動観察やエピソード記録を通した幼児理解
- 12 園・地域における専門家との連携による相談・支援
- 13 保育者の専門性と相談活動
- 14 基礎的対人関係のトレーニング
- 15 まとめ

授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議や演習を行

い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで詳細を参照とすること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法、その他

平常点50% 定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。
欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子どもの理解と保育・教育相談【第2版】」 みらい

参考図書

「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」 ひとなる書房
「やさしく学べる保育カウンセリング」 金子書房
文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

留意事項

グループ演習等が多いため、毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。
毎回の授業での振り返りシートの提出を求める。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

教科「音楽」の意義を理解し、実態を視野に入れた授業を構成できる能力や、幅広い音楽活動の指導ができる技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を修得するとともに、これからの音楽教育について考察する。歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習や発表を行い、現代の環境に適した音楽指導法を研究する。

授業計画

- 1 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
- 2 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
- 3 楽典の基礎と他教科とのかかわり。
- 4 リコーダーの理解と合奏
- 5 いろいろな楽器の理解と奏法
- 6 合奏教材と指揮法基礎演習
- 7 歌唱教材の研究と演習
- 8 歌唱教材の研究と演習
- 9 鑑賞教材の研究（音楽の歴史）
- 10 鑑賞教材の研究（日本の音楽・世界の音楽）
- 11 日本の音楽教育
- 12 ピアノ演習
- 13 模擬授業
- 14 模擬授業
- 15 振り返りと展望

授業の方法

講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①授業で研究発表、演奏を行い、フィードバックをする。
- ②平常点50%、定期試験50% 各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

欠席について

授業時の発表や演習も評価の対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

初等科音楽教育法（音楽之友社）

参考図書

小学校音楽用指導書（教育芸術社）

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭支援の心理学			17763	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
島田 麻美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

生涯発達という視点から、発達の諸特徴や発達課題、初期経験の重要性について学ぶ。また、社会や文化の時代的変化とともに変容し、多様化してきた家族・家庭について理解を深める。保育者として、人の生涯発達について理解した上で、家庭の持つ意味と現状、そしてさまざまな課題を抱える子どもや家庭の理解と支援につながる力を身につけることを目指す。テーマに関連する事例を挙げ、具体的な支援場面へどうつなげていくかを考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション、生涯発達とは
- 2 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
- 3 学童期後期から青年期にかけての発達
- 4 成人期から老年期にかけての発達
- 5 家族関係・親子関係の理解
- 6 子育ての経験と親としての育ち
- 7 子育てを取り巻く社会的状況
- 8 ライフコースと仕事・子育て
- 9 多様な家庭とその理解
- 10 特別な配慮を要する家庭への支援①
- 11 特別な配慮を要する家庭への支援②
- 12 子どもの精神保健とその課題
- 13 子どもの生活・生育環境とその影響
- 14 子どもの心の健康にかかわる問題
- 15 まとめ

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

グループ発表後は、担当教員よりフィードバックを行う。
平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜プリントを配布する。

参考図書

原信夫・井上美鈴編著『子ども家庭支援の心理学』北樹出版
松本園子他『子ども家庭支援の心理学』ななみ書房

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援			17768	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者支援（相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。

授業の概要

保育士の行う子育て支援の特性を理解し、実践事例を考察しながら、保育士の行う子育て支援の展開として、支援計画や環境構成、支援の実際・記録・評価・カンファレンスについて理解を深める。また、保育士の行う子育て支援とその実際として具体例を挙げ、双方向の討議を取り入れて意見交換できるようにする。様々な子どもに対する対応やその家庭に対する支援について理解する。まとめとして、「子どもの最善の利益」を保障するための6つの視点からこれからの子育て支援について考察する。

授業計画

- 1 保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の必要性
- 2 子育て支援の基本について
- 3 環境構成を活用した子育て支援
- 4 子育て支援のむずかしさ
- 5 保育者の「役割の二重性」と子育て支援の葛藤
- 6 「子どもの最善の利益」を保障するための6つの視点
- 7 保育士の行う子育て支援の実際
- 8 まとめ 定期試験

授業の方法

保育実践の事例を取り入れ講義を行う。グループ討議等を行い、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

準備学修

Webで参照とすること。

課題・評価方法、その他

平常点30% 課題レポート20% 定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

「保育の専門性を生かした子育て支援」わかば社

参考図書

授業内で紹介する。

留意事項

毎回の出席と主体的な取り組みを心がけること。地域の子育て支援について調べておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育Ⅱ			17779	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育Ⅰを踏まえて、乳児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助やかかわりについての理解を深め、養護と教育の一体性を考えた生活や遊びと、保育の方法について、実際体験を通して具体的に理解する。また、そのための指導計画のあり方を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

乳児保育Ⅰでの授業を振り返りながら、乳児保育とはどういうものであるかを、実際体験や演習を通して再認識し、またその保育をする上での計画について理解を深め、乳児保育にあたる保育者として専門的能力を身につけられるようにする。

授業計画

- 1 乳児保育の基本 乳児保育はなぜ必要か。
- 2 乳児保育の基本 乳児保育の役割。
- 3 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 4 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 5 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 6 乳児保育の実際（教室を出て実際体験をする。DVD視聴）
- 7 乳児保育における計画の実際
- 8 乳児保育における配慮の実際
- 9

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%
レポート提出を求め、講義の中でのフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

はじめて学ぶ 乳児保育 第3版 同文書院 志村聡子編著者

参考図書

保育所保育指針解説（フレーベル館）
新時代の保育双書 乳児保育 第3版 （株）みらい 大橋貴美子編
乳児の生活と保育（改訂版） ななみ書房 松本園子編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験もあるため、授業計画の変更もある。教務課前掲示板をよく注意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

- ①障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
 - ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
 - ③障害児その他の配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
 - ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
 - ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
- 以上をライフステージを見通して理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

障害児保育を支える理念を理解し、障害児その他の特別な配慮を要する子どもの理解と保育における発達の援助について、個々の特性を具体例を挙げて理解を深めていく。また、子どもの保育の実践として、指導計画及び個別の支援計画の作成や個々の発達を促す生活や遊びの環境、子ども同士の関わりと育ち合いについて、実践例から考えていく。グループディスカッションを通して、意見交換を行い、発表を行う。
発表後、教員がフィードバックを行う。障害児その他の配慮を要する子どもの家庭支援について、具体例を挙げて解説する。最後に現状と課題について考察していく。

授業計画

- 1 障害児保育を支える理念
- 2 知的障害児の理解と支援
- 3 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケアの理解と支援
- 4 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援
- 5 言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援
- 6 発達障害児の理解と支援①（ASD）
- 7 発達障害児の理解と支援②（ADHD・LD）
- 8 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助
- 9 子ども同士の関わりと育ち合いと子どもをみる視点
- 10 指導計画および個別の支援計画の作成、職員間の連携・協働

- 11 保護者や家族に対する理解と支援、保護者間の交流や支え合い
- 12 障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関の連携・協働
- 13 小学校等との連携・就学に向けて
- 14 特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題
- 15 まとめ 定期試験

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

障害児保育演習ブック ミネルヴァ書房

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障害者施策および事業に関心を持つ

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I A			17812	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

- 1 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
- 2 保育所の役割と機能を理解する
- 3 発達過程の理解を深める
- 4 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
- 5 保育内容の実践
- 6 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
- 7 実習記録の書き方を知る
- 8 実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかりと把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B			17813	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

- 1 実習の意義・目的・概要について理解する。
- 2 各施設の役割と機能を理解する。①
- 3 各施設の役割と機能を理解する。②
- 4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようにしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。遅刻は3点減点とする。

テキスト

「施設実習 パーフェクトガイド」 わかば社
「【改訂2版】これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉」わかば社

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかりと把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。